

令和4年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	65	学校名	県立筑波高等学校				課程	全日制			学校長名	茂呂 輝夫				
教頭名	大塚 健司								事務長名	栗原 徹						
教職員数	教諭	23	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	11	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	48
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計	クラス数			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		42	36	34	25	34	30			110	91	7			

2 目指す学校像

豊かな人間性と職業観、勤労観を育て、「つくばね学」等を通して「地域に支えられ、地域を支える高校生の育成」を目指し、地方創生に貢献できる人財を輩出する学校	【実践目標】 正しい判断 自主的行動	【育てたい資質能力】 人間力 他者とかかわり、協働する力 自他を尊重し、思いやる心 粘り強くやり遂げる力
--	--------------------------	--

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○ 人間力（①他者とかかわり、協働する力 ②自他を尊重し、思いやる心 ③粘り強くやり遂げる力）を培い、地方創生に貢献できる人財の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○ 個に応じたきめ細かな学習指導を徹底するとともに大学等との連携を図るなど、生徒の学習への興味関心を引き出し、多様なニーズに対応したキャリア教育による進路希望実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○ 学校や社会の規範を守って日常生活の中で実践し、学校生活に積極的に取り組む意欲のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎学力を身につけるために、習熟度別授業や少人数授業、單元ごとの小テスト、年3回の「一般常識テスト」を実施している。その結果、学習で学んだことの振り返り活動を行うことができるなど、スモールステップでの学習形態が確立している。また、進学希望の生徒に対しては、学力向上のために課外授業、休み時間や放課後の個別指導を実施している。	学習意欲や基礎学力の個人差が大きいため、教員の授業改善と個に応じた学習指導の工夫が必要である。四年制大学や短期大学、専門学校などの上級学校へ進学したい生徒の希望を叶えるため、個別の学習指導体制が欠かせない。
進路指導	生徒の進路希望が多様化しており、進路実現のために、定期的に進路ガイダンスや進路別見学会を実施している。ハローワークとの連携により、就職者の内定率100%を7年連続で達成できた。一方、四大・短大進学者は「平成29年度5名、平成30年度5名、令和元年度9名、令和2年度10名、令和3年度14名と、徐々に増加している。	早期からキャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育むことで、生徒の就職活動への意欲が高まり、好成績を維持している。また、特進クラスを設置しているものの、大学及び短大への進学者数は全体の約2割であるため、対策を講じる必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の定着、規範意識高揚を目的としたマナーカードを導入から10年が経過し、授業態度、服装容儀、日常生活等の改善が見られている。また、「Shihou Card(至宝・紫峰カード)」導入により、ほめる指導、生徒の意欲を引き出す取組も9年目を迎え、定着しつつある。	マナー指導で教室を巡回した時は服装を直すのが、先生がその場を離れると元に戻ってしまう生徒がいる。登下校時にも服装指導を徹底する必要がある。「自主的行動」のできる生徒育成のために、内面的な成長を促すことが次のステップにつながると考えられる。

別紙様式 1 (高)

特別活動	学校行事については、生徒主体の運営が行われている。近年では、ボクシング部と弓道部は関東大会以上の出場実績がある。平成 30 年度の部活動加入率は 34.8%、令和元年度は 34.7%、令和 2 年度は 34.8%、令和 3 年度は 37.8%と低い状況にある。	歩く会や百人一首大会などの伝統的な学校行事をとおして、愛校心を涵養している。今後は、学校行事の参加率と部活動の加入率を高めること、「キャリア・パスポート」活用の充実が課題である。
働き方改革	教職員は、授業や学校行事のほか学習面・生活面について生徒一人一人に対して丁寧に取り組んでいるが、教職員数減のため、業務の整理に取り組んでいる。	教育的効果を低減させずに、学校行事や会議・打ち合わせ等業務の精選、実施方法の改善が急務である。

5 中期的目標

1	きめ細かな学習指導を徹底し、生徒の学習への興味関心を引き出し、成績不振等による中途退学者、転学者を合わせて 10 名以下に減らす。
2	正しい制服着用の指導を徹底する。また、「心の教育」の充実を図り、生徒指導処置（マナーカード指導を含む）を受ける生徒を延べ年間 30 名以下とする。中途退学者の中には、入学前に引きこもりや不登校に起因する生徒もあり、スクールカウンセラーの活用や職員のスキルアップを図り「心のケア」を充実させる。
3	大学等との連携を図るなど進学指導の充実を図り、四年制大学進学者を 10 名以上にする。進学者の増加には、まず上級学校の魅力や受験の仕組みを伝える機会を創出する。また、受験に対応できる学力の向上が不可欠であることから、個に応じた指導体制とともに組織としての指導体制の強化を図る。
4	部活動への加入率 50%以上を目指し、顧問の適切な配置と部活動関係施設の充実、諸費用等のバックアップ体制を確立し、部活動の活性化を図る。
5	学校行事や会議・打ち合わせ等業務の精選、実施方法の改善を検討し、無駄を削減し、働き方改革を進める。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
I 義務教育段階の学習内容の確実な定着と個に応じた発展的な学習の展開	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びの実現を目指すという視点から授業改善を行い、学校設定教科としての筑波サポートタイム (TST) やティーム・ティーチング、少人数授業の積極的な実施により、基礎基本の定着と学習意欲の向上を図る。 ② 生徒の進路実現に結びつく学力を育むため、授業の工夫や改善を図ることにより、授業を充実させる。 ③ 相互の授業参観や意見交換等を積極的に行い、個々の教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲を喚起する。
II 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒や保護者に学校の指導方針を伝え、全職員が一体となり生徒指導を推進し、基本的生活習慣の確立に努める。 ② 「マナーカード」及び「Shihou カード」を効果的に活用し、生徒の自己管理能力を育成する。 ③ 人権尊重の精神を涵養するとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織として対応する。 ④ 教職員自らが人権感覚を身に付け、生徒理解に努め、生徒指導のスキルアップを図る。 ⑤ LD、ADHD や高機能自閉症などの発達障害への理解を深め、カウンセリング的な相談スキルを高めることで、生徒の自立を支援する。 ⑥ 部活動を通して責任感、自立心、忍耐力を養い、規範意識を基盤とした自主的活動ができるリーダー的な人材を育成し、学校活性化を図る。
III キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己の進路適性理解に向けた進路講演会、進路関係教材等の利用、「進路の手引き」を活用した LHR を計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。 ② 希望制によるインターンシップ及び「つくばね学」を 2 年生で実施するとともに、3 年生では「つくばね学探求」も実施し、また、「キャリア・パスポート」の活用をすすめることによりキャリア教育を一層推進する。 ③ 先を見通した体系的な進路指導を行うとともに、保護者へ進路情報を積極的に提供し、進路実現に向けての取り組みへの理解と協力を得る。 ④ 各大学、短大との連携を積極的に行い、進学実績の向上を図る。また、引き続き就職内定率 100%を維持できるように、就職指導を充実する。
IV 地域や異校種との連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 地元の風土や自然及び地域の教育力を生かす「つくばね学」「つくばね学探求」をさらに充実させ、2 年生及び 3 年生全員による地域や筑波学院大学と連携した体験的な学習活動を実施し、生徒の「人間力」の向上を目指す。 ② 地域の義務教育学校や筑波大学との連携を図り、百人一首大会等の伝統行事を行うことで、生徒に愛校心や郷土愛を醸成し、地域を担う人材の育成に努める。 ③ 中学校と緊密に情報交換を行うことにより、信頼関係を構築する。 ④ つくば市との連携を積極的に図り、地域に根ざした高校として地域に貢献する。
V 働き方改革の実現	<ul style="list-style-type: none"> ① 「きんむくん」の活用により、教職員自らの働き方改革について意識の向上を図る。 ② 教育的効果を低減させずに、学校行事や会議・打ち合わせ等業務の精選、実施方法の改善を図る。